

梅毒3.5倍 最多599人

道内22年「ためらわず検査を」

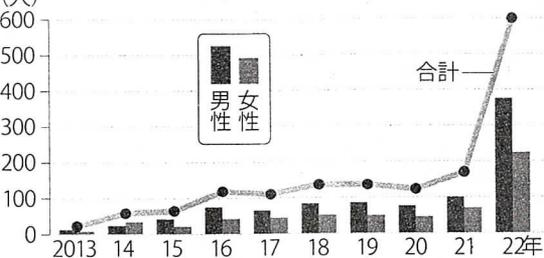
性感染症の一つ、梅毒の感染者が、道内で急増している。道への報告数は2022年、前年の3・5倍となる599人に上り、現行の集計方式となった06年以降で最多だった。今年も勢いは止まらず、9日時点での感染者は244人と前年同期の2・5倍となっている。道は「症状が現れたらためらわずに検査を受けてほしい」と呼び掛けている。

22年の感染者の内訳は、男性が6割を占める。年齢は男性が20～50代と幅広い年代で多く、女性は20～30代と若者が多いのが特徴だ。保健所別では、札幌市保健所管内が439人で感染者の約7割を占め、旭川市では36人、函館市では11人といずれも過去最多を記録した。

道によると、道内の感染者は06～15年に1桁台から60人台で推移したが、16年に3桁となる118人を記録。21年まで110～160人台と3桁台が続いている。

梅毒は「梅毒トレポネーマ」という細菌による感染症で、主に性行為によって感染する。感染すると性器にしこりができたり、手のひらに痛みのない発疹が広がったりする。ただ、これらの症状は途中で消えることがあり、治療をせずに長期間放置すると脳や心臓に合併症が出て死に至る場合

道内の梅毒感染者の推移



もある。妊婦が感染すると胎児にもうつり、障害を引き起こす恐れもある。

感染拡大について、梅毒に詳しい、ていね駅前泌尿器科（札幌）の砂押研一院長によると、性風俗店を利用した後、感染が判明する人が多いという。その上で「感染するのは腭性交だけと誤解している人が多い。口を使った性行為（オーラ

ルセックス）でもうつるとを知ってほしい」と強調する。

さらに受診を我慢してしまつ人がいるとし「知らないうちに感染を広げてしまつただけではなく重症化する人もいる。症状が出て自覚がある人は検査を受けてほしい」と話している。

（国乗敦子）